2017 10
32号

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization

Matsumoto Medical Center

まつもと医療センター
中信松本病院
松本病院

Matsumoto Medical Center

◆地域包括ケアシステムにおける看護部活動……2
◆まつもと医療センター「臨床研究事業」のご紹介……3
◆まつもと医療センター工事進捗状況……5
◆麻酔科紹介……6
◆神経内科病床の新病棟への先行移転を終えて……7
◆リレーフォーライフ・松本ぼんぼん……8
◆すくすく教室・ムーブメント教育・療法セミナー……9
◆新任・退任医師紹介・神経内科診療体制……10
◆夢来夏祭り・感染対策研修会……11
◆お知らせ……12

紅葉　麻績村

地域包括ケアシステムにおける看護部活動

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムが構築されつつあります。今までの医療は「病院完結型」でしたが、今後は「地域完結型」にシフトチェンジします。また、治療、回復だけではなく、「生活の質」に焦点を当てることが必要となるため、看護師のキーパーソンとしての役割や能力の発揮が求められています。

さて、このような状況の中、当院では、看護師はどのような役割を担うべきなのかを見据え、患者さんに対して、幾つか取り組みを実施しています。第1に、平成27年より退院支援研修として、訪問看護ステーションの協力を得ながら、退院患者さんの自宅訪問を行っています。看護師は、自宅での患者さんの笑顔を拝見し、自宅で過ごすことの意義を感じ、在宅で安心して過ごせる退院調整を行っています。更に、平成28年11月より退院後訪問を開始いたしました。また、今年6月に退院支援加算1を取得し、従来の退院支援チームメンバー（看護師、社会福祉士）に薬剤師、栄養士、リハビリテーションスタッフを加え、退院支援カンファレンスを実施し、在宅患者さんの生活に焦点をあてたケアについて検討しています。

第2に、平成27年より「夜間おむつ交換で目が覚めてしまう」という患者さんの訴えから、高吸収タイプおむつ使用を開始し、患者さんの夜間良眠と快適性の向上を行っています。今年度より皮膚排泄認定看護師を中心にコンチネンスケアチーム会を発足し、排泄に関する勉強会や個別ケアの検討を行っています。

第3に、平成28年呼吸器外科・整形外科病棟において、認知症・せん妄患者に対して多職種チーム（医師、看護師、リハビリテーション科、社会福祉士）活動を開始しました。入院時にリスク評価と患者家族へのオリエンテーション実施、神経内科医師の薬剤投与方法等の指示受け、患者さんに合わせた環境調整を行った結果、せん妄発生が減少しました。また、認知症研修に複数名参加し、学びを深め、今年7月より認知症加算2を取得しました。更に、今年、認知症看護認定看護師、摂食嚥下認定看護師が誕生しましたので、より専門的なケアを患者さんに提供できると思います。今後も、地域の方々と連携・協力し、「生活の質」に焦点を当てた看護を提供していきたいと思いますので、ご支援・ご助力をよろしくお願いいたします。

看護部長　樋口（ひぐち）　善恵（よしえ）

まつもと医療センター「臨床研究事業」のご紹介

国立病院機構（以下ＮＨＯ）の業務には三つの柱があり、診療事業、教育研修事業とともに「臨床研究事業」が掲げられています。この臨床研究事業を推進するにあたり、ＮＨＯでは多施設共同による臨床研究を行う拠点として、臨床研究センターを全国10か所に設置しています（名古屋医療センター、東京医療センターなど）。また分野横断的な臨床研究を、独自にあるいは多施設共同で行うため、全国73か所に臨床研究部が設置されており、そのひとつが「まつもと医療センター臨床研究部」です。

臨床研究を取り巻く環境の変化は著しく、平成29年４月に「臨床研究法」が交付され、医薬品の有効性・安全性を明らかにする臨床研究が法律の対象となりました。また５月には個人情報保護法の改正に伴い研究倫理指針の見直しがあり、当院でも今までの臨床研究の点検を行いました。このような臨床研究を取り巻く環境について、正確にわかりやすくセンター職員に周知するとともに、研究を行う環境づくりを続けていくことが、当院の臨床研究部の使命のひとつです。

臨床研究事業のなかでも、ＮＨＯとして特筆すべき事業に大規模臨床研究の推進があり、「ＥＢＭ推進のための大規模臨床研究」、「ＮＨＯネットワーク共同研究」、「指定研究」の３つのカテゴリーがあります。「ＥＢＭ推進のための大規模臨床研究」は本部主導のもと、豊富な症例と一定の質を確保することができる国立病院機構のスケールメリットを活かし、我が国では前例のない多施設による大規模な研究です。ＮＨＯネットワーク共同研究は、政策医療分野を含む21領域について、領域ごとにＮＨＯ研究ネットワークグループを構築し、統括するグループリーダー施設を中心に各病院が参加して、臨床の問題解決に焦点を当てた研究を行っており、当院では現在11のネットワーク研究に参加しています。

ＮＨＯのネットワークを活用することで、迅速で質の高い治験を推進することも、臨床研究部の仕事の一つです。医師主導治験も含めて新しい治療薬や医療機器の治験（臨床試験）に積極的に取り組むことが奨励されています。当院では平成28年度はのべ９件の治験の依頼があり、対象疾患は、パーキンソン病、早期アルツハイマー病、帯状疱疹後の神経痛、レビー小体型認知症、リンパ腫、１型糖尿病、心房細動、糖尿病性腎症でした。今後はさらに各科の治験依頼数を増やすとともに、治験症例数を達成するための周知を病院内外に行っていきたいと考えています。

臨床研究部では、院内の研究発表会を年２回開催し、優秀演題の表彰を行っています。また研究倫理の研修としてＣＩＴＩ Ｊａｐａｎの受講や、研究計画書作成の講習、業績録年報の作成、メディカルスタッフの研究の資金面での援助、といった事業も継続して行っています。

平成30年５月にまつもと医療センターの一体地化を控え、さらなる臨床研究業務の拡大を期待するとともに、引き続き皆さまのご理解とご支援を頂ければ幸いです。

臨床研究部長　武井（たけい）　洋一（よういち）

まつもと医療センター工事進捗状況

まつもと医療センターは、平成30年5月の松本病院と中信松本病院の一体化に向けて、松本病院敷地内で様々な工事を進めております。前回（31号）は、今年3月に完成した新病棟を特集で紹介させていただきました。今回号は、その後の工事進捗について、お知らせいたします。

外来診療棟2（旧C棟）改修工事の完成

今年3月まで病棟として使用していた旧C棟（旧1C・旧2C病棟）は、外来診療棟2として運用するための改修工事が3月下旬から行われておりましたが完成し、8月中旬から2Fを中心に建物の使用を開始しております。外来診療棟2は建築から30年以上が経過している建物ですが、内装は全面改修を行ったことで新築同様の仕上がりとなっております。建物の2Fは、医局、医局談話室、カンファレンスルーム2室、当直室8室（医局・看護部）、更衣室2室（医局）、医師事務補助執務室を整備しました。新医局は、机・椅子・棚を一新し、これまでの分散型から大部屋方式（69席）となったことで開放的な空間が広がっています。席次は、ポスト関係なく、くじ引きで決定されました。このことで、各セクション間の垣根が取り払われ、チーム医療の推進や各診療科間の連携の徹底が図られるものと考えております。1Fは、松本病院から救急外来、中央処置室、中央採血室、歯科、人間ドックが移されたことと、中信松本病院の診療科（整形外科・神経内科・呼吸器内科・呼吸器外科）の外来を整備しました。小児科外来は、外来診療棟1を改修し、来年3月迄に整備する予定です。1Fは、人間ドック等で一部の使用を開始しております。

外来診療棟2

1F　外来診察室

1F　救急処置室

2F　医局

2F　医局談話室

建物解体・駐車場整備工事

敷地西側の建物（サービス棟、リニアック棟、MRI棟、CT棟、RI棟、アフターローディング棟、旧西病棟等）は、その機能を新病棟に移したことから解体することとなり、7月末迄に解体が完了し、現在は駐車場整備工事が進められています。旧東病棟も10月末までに解体される予定で、その跡地に約30台の駐車場を整備し、平成30年3月の完成時は、敷地内に約350台（現在約160台）の駐車場が整備される予定です。現在の駐車場は狭くて、ご利用者にご不便をおかけしておりますが、もうしばらくお待ちくださいますようお願いいたします。

松本病院　平成29年8月上旬

西側駐車場整備中　平成29年9月上旬

今後の工事予定

平成30年3月までの工期で、解体工事、外来診療棟1の改修工事、外構工事等が予定されております。引き続き、解体工事及び改修工事に伴う騒音・震動、工事期間中の仮設渡り廊下の運用等により、患者さんや関係の皆さまにご不便やご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

企画課長　秋山（あきやま）　雅彦（まさひこ）

	期間または時期	場　所	内　容
【改修工事】	8月20日～9月20日	外来診療棟1	旧麻酔科外来→婦人科に改修 旧人間ドック→面談室に改修 旧がんサロン→外来休憩室に改修 旧フィルム庫→相談支援センターに改修
	8月～11月末	外来診療棟1	旧手術室・中央材料室→薬剤部に改修
	10月～11月末	外来診療棟1	救急患者搬送口→地域医療連携室面談室に改修
	10月～2月末	外来診療棟1	婦人科小児科棟→小児科エリアに改修
	11月～2月下旬	外来診療棟1	機能訓練棟内改修 旧薬剤部→医事事務室に改修
【解体・外構工事】	9月～10月末	東病棟	建物解体
	10月～12月末	渡り廊下	本設渡り廊下増設
	8月～10月	駐車場	西側駐車場整備
	12月～3月中旬	駐車場	東側駐車場整備

麻酔科紹介

【麻酔科業務】

麻酔科は井上手術部長と新倉の2名（ともに日本麻酔科学会指導医・専門医）が診療を担当しています。周術期（術前・術中・術後）麻酔管理、緩和ケア・ペインクリニック、手術室運営のほか、院内外の医療者（臨床研修医、信州大学医学生、松本歯科大学歯科医師、看護師、救急救命士など）の教育・指導にも力を入れています。

【術前外来から始まる周術期管理】

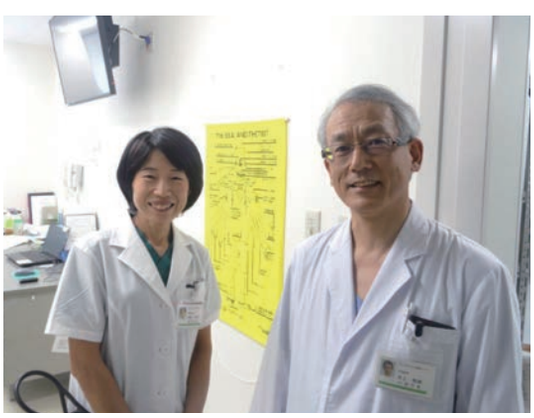
緩和ケアについては、過去の広報誌（第5号・28号）にもご紹介しておりますので、今回は周術期管理のスタートである術前外来についてお話しします。

術前外来は麻酔科医と手術室看護師の協働で運営しています。手術が決定された日に、手術患者さんは術前検査の後、術前外来を受診していただきます。手術室看護師が問診、既往歴・手術歴の確認、身長・体重、血圧などの測定、麻酔のオリエンテーション、禁煙指導などを行い、麻酔科医は患者さんの診察やデータチェック、麻酔方法の説明、必要に応じて専門科医師紹介や追加検査指示を行います。術前外来で得られた情報から医師事務助手が要約を作成し医療者間で共有します。地域の先生方のご紹介状からも多くの情報をいただいております。

周術期管理のゴールは、安全な手術と可能な限り短時間の社会復帰です。日本麻酔科学会の調査によると、術後30日以内の死亡の原因は60％が術前合併症とされ、安全な手術のためには術前の基礎疾患・合併症へのアプローチが重要となります。当院では2008年より術前外来を開設し、十分な術前リスク評価の時間を確保するとともに、周術期を通して歯科医師、理学療法士、栄養士、薬剤師、臨床工学士、ソーシャルワーカーなど多職種が介入し患者さんを支援するシステムを構築してきました。複数の目で患者さんをみることで多面的な術後合併症の予防と術後回復促進に繋がります。

手術患者さん・ご家族には手術・麻酔や術後の生活についての不安を抱えておられる方、手術の準備が進む中で気持ちが追いつかない方もいらっしゃいます。ご質問・ご要望も伺い、心身ともに準備して手術に臨んでいただけるよう努めています。

手術患者さんは地域の先生方からご紹介された方も多く、「かかりつけの先生が今回の病気を見つけてくれました」、「いい先生がいるから大丈夫、と背中を押してもらった」と話される方もおられます。患者さんがご家族や先生方のもとに元気にお帰りになるよう、主治医、看護師をはじめ多職種と共に安全・安心の周術期管理を目指していきます。



井上手術部長（昭和60年卒：平成13年赴任）と新倉（平成5年卒：平成14年赴任）

周術期管理チーム会議：
周術期に関わる多職種により周術期管理の見直しや新しい運用の提案などを行います

麻酔科　新倉（あらくら）　久美子（くみこ）

神経内科病床の新病棟への先行移転を終えて

本年3月に、まつもと医療センター新棟への松本病院の病棟移転が完了し、来年5月1日の中信松本病院の移転による一体地運営にむけて、整備をすすめていました。しかしながら病棟設備等の問題により、中信松本病院7病棟（長野県指定療養介護事業26床を含む、神経内科病床50床）については、他病棟に先がけ9月2日、新棟に移転しましたのでご報告致します。

先行移転の可能性について検討が始まったのは5月下旬のことでした。神経内科の移転の影響を最小にすべく「神経内科の病棟機能は新病棟で、一方外来機能は中信松本病院に残す」こととし、準備を始めましたが、7月7日にようやく移転の日程が「9月2日」に決定しました。院内への周知や各部門との折衝、広域消防局等との連絡といった移転準備であわただしく日々が経過していきました。

神経内科に入院中の方々の多くは神経難病患者で、終日臥床状態の方がほとんどです。8月当初は50名ほどの入院患者数でしたが、近隣の病院への転院、および自宅への一時退院をお願いすることにより、最終的には29名の移動となりました。入院中の患者さんはいずれも終日臥床状態であり、うち人工呼吸器装着16名、という重症の方々ばかりです。このため救急車や介護タクシー、寝台車いずれも一台に患者さん一人ずつと、医師、看護師が一名ずつ同乗する、という体制で臨みました。また、患者さんの荷物や病棟の荷物は事務職員を中心に自前で移送することとしました。

救急車を出て新病棟への入口へ向かう

9月2日当日は、台風の接近も危惧されていましたが、朝から穏やかな天候に恵まれ、午前8時から搬送が開始されました。搬送ルート途中は水道管工事中により片側通行となっていましたが、水道局のご協力により通行にはご配慮いただきました。松本広域消防局のご協力のもと、救急車2台と隊員8人に出動していただき、主に重症患者と呼吸器装着患者さんの搬送をお願いしました。さらに介護タクシー1台と、職員が運転する搬送車3台にて残りの患者さんを搬送し、13時頃までにすべての患者さんを無事、新病棟東6階へお送りすることができました。移動に伴い患者さんの体調不良や状態の悪化が心配されましたが、新病棟移転後もおおむね患者さん方は落ち着いており、安堵しています。一方で、病棟スタッフは慣れない電子カルテに四苦八苦しているところですが、これも徐々に慣れていくことと思います。

ご協力いただきました、松本広域消防局、水道局の方々には、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。さらに、一丸となって先行移転に取り組んでいただいたまつもと医療センター職員の皆様に、一神経内科医として感謝致します。しばらくの間、神経内科入院は新病棟、外来（「もの忘れ外来」や「ふるえふらつき外来」を含む）は中信松本病院での診療となり、受診する方々や関係医療機関にご迷惑、ご不便をおかけしますが、ご容赦のほどお願いいたします。

平成30年5月1日、まつもと医療センターの完全一体地化が予定されております。今回の先行移転を踏まえ、安心・安全に移転できるよう検討を始めておりますが、その際にも引き続き、ご支援ご協力をお願い致します。

臨床研究部長　武井（たけい）　洋一（よういち）

新病棟東6階（神経難病センター）から東を望む

RELAY FOR LIFE JAPAN CANCER SOCIETY

フレー、フレー、「リレー・フォー・ライフ」 9月9日～10日

まつもと医療センターは、RFLを全面的に応援しようと2012年より毎回参加しています。今年も9月9日～10日に松本市やまびこドームで開催され、医療救護班として参加しました。第一回から実行委員として続けて参加している職員もいます。もちろん、リレーにも参加したことはいうまでもありません。今回初めて参加した間瀬栄養管理室長は、24時間歩き続け、なんと479周（120㎞）を歩き、個人総合一位で表彰されました（写真）。足はパンパンになったそうです。顔はスマイルでした。

今回は、閉会式で挨拶する機会をまつもと医療センターの院長に与えていただきました。私が30数年間にわたって血液内科医として患者さんとともに血液がんに立ち向かってきたからでしょうか？　挨拶の最後に、声高らかに「フレー、フレー、がん患者の皆さん、支援する皆さん。それ～、フレフレ、皆さん、フレフレ、皆さん」「フレー、フレー、リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017信州松本。それ～、フレフレ、RFL、フレフレ、RFL」とエールを送りました。その響き渡る声は涙を誘ったようでした。

こうした社会的活動を、この地域にさらに広めていきたいと改めて思いました。

院長　北野（きたの）　喜良（きよし）

夏祭りだ！松本ぼんぼんだ！ 8月5日

去る8月5日、第43回松本ぼんぼんにまつもと医療センターは総勢80余名の連として参加いたしました。今年は心無いインターネットでの書き込み騒動のため、参加を取りやめる連も出るという残念なこともありましたが、245連、2万2500人参加という盛大なイベントでした。松本の暮らしも長い中で一度も参加したことのないお祭りに、しかも連長で参加することになるとは思いもしませんでしたが、これもひとえに締め切り直前の院長先生のお電話のおかげです。

今年は松本城前からのスタートでした。日も明るく、酔いも軽いためか？静かに踊りがスタートしましたが、休憩時間を重ねるたびにエネルギー🔋が充填され、夜の深まりと共に噂通りの姿に変化していきました。21時の終了の合図まで踊りの勢いが衰えることなく、無事に終了いたしました。残念ながら賞をいただくこともメディアに登場することも叶いませんでしたが、それは来年のまつもと医療センターが一つになった時に達成されるものと信じています。

今回、中心となって準備を進めてくれた栄養管理室長をはじめ栄養管理室ならびに療育指導室のスタッフの皆様に心から感謝をいたします。

整形外科部長　若林（わかばやし）　真司（しんじ）

中信松本病院での最後の「すくすく教室」 8月1日～3日

2017年は8月1日～8月3日2泊3日の日程で「すくすく教室」を開催しました。この10年では最多の10人の小学生が参加してくれました。栄養指導としては毎食ごとに適正な量とバランスのとれた食事をしながら栄養素の勉強をし、食事メニューの組み合わせを選ぶことや、決められたカロリーの中でおやつを選ぶこと、水や炭酸水に砂糖を溶かす実験、低カロリーのアイスづくりなど、いろんな体験をしていただくことができました。中信教育事務所の先生をお招きして、頭を使って体を動かすゲームなどいろんなスポーツレクリエーションを指導していただき、子どもたちもスタッフも夢中になってやることができました。また家でもできる体操やストレッチを親子で覚えてもらいましたので、雨の日でも毎日体を動かすヒントになったかと思います。様々なスタッフが一人の患児・家族に介入することで、診察室では気付かない事もフォローできることが「すくすく教室」の強みだと思います。今後の肥満治療のいいきっかけになったのではないかと思います。準備から当日まで協力してくださった多くのスタッフに感謝いたします。来春には中信松本病院は引っ越しになりますので、次回は新しい病院での一からの再スタートになります。より安全に楽しく肥満治療のきっかけ作りができるイベントにしていきたいと考えています。

小児科医長　倉田（くらた）　研児（けんじ）

「平成29年度ムーブメント教育・療法夏期実践講座信越大会開催」 7月15日～16日

ムーブメント教育・療法は遊びの要素を取り入れた動きを通して、対象者の自主性を尊重しながら発達を支援します。普段、病室のベッド上で過ごすことが多い利用者の方々に対して、訓練ではなく、「やってみたくなる」環境を活かした活動は、全国の幅広い分野の現場に導入され、高く評価されています。

当院では、1997年に重症心身障害病棟の療育に取り入れ、「日本ムーブメント教育・療法協会」の夏のセミナーを信越支部として毎年行い19回目となりました。今年の開催は7月15～16日、全国の教育現場や障害児者支援に関連する受講者を100名以上迎え、その関心の高さを再確認しました。大会では、当院小児科医長　西村先生の挨拶をかわきりに、当通所支援事業所ご利用のお子さんに参加協力いただいた実技指導や、飯田病院総合内科医師　長沼邦明先生のご講演などによって、充実した学びの二日間とすることができました。信越大会の特徴は「医療と結びついた実践講座」というものです。協会本部事務局長によると、当初「日本ムーブメント教育・療法協会」という名称に「療法」という文言がなかったが、当院の取り組みの功績によって「療法」が付いた、とのこと。この貴重な存在位置を大切にして、次の20周年に向かい努めていく所存です。今後ともご協力の程をお願い申し上げます。

中信松本病院療育指導室
主任保育士　髙橋（たかはし）　明美（あけみ）

新任・退任医師紹介

新任医師 中信松本病院

■呼吸器外科

なかむら だいすけ
中村大輔
呼吸器外科医師
平成24年卒
専門：呼吸器外科

日本外科学会、日本呼吸器外科学会、日本肺癌学会、
日本胸部外科学会、日本臨床外科学会

患者様に寄り添い、ひとりひとりに合った治療を提供できるよう心がけていきたいと思います。患者様のお役に立てるよう、お困りのことがございましたらお気軽にお声掛け下さい。

■小児科

さいとう たかまさ
斎藤孝昌
小児科医師
平成26年卒
専門：小児科

新任医師 松本病院

■神経内科

ふくしま かずひろ
福島和広
神経内科医師
平成11年卒
専門：神経内科

退任医師 中信松本病院

■呼吸器外科

まつおか しゅんいちろう
松岡 峻一郎
呼吸器外科医師

■呼吸器内科

さかぐち のぶき
坂口伸樹
呼吸器科医長

■小児科

さど ともみつ
佐渡智光
小児科医師

神経内科診療体制

当科では神経内科医師5名が急性期から慢性期の様々な神経疾患の診療を行っており、特に慢性神経疾患の中の神経難病を主な診療対象にしています。診断には十分な診察と適切な検査を心がけ、エビデンスに基づく治療に加え、最新の知見も取り込み、個々の患者さんに合った最良の診療を目指しています。さらに、患者さんの在宅での生活や介護する家族についても考慮して全人的な支援体制を目指したチーム医療を実践しています。医療介護度の高い難病患者さんのレスパイト入院や終末期の患者さんには、苦痛の除去と安寧に配慮した緩和ケアも行っています。

平成29年度は、療養介護病床26床を運用して、長期入院を必要とする神経難病患者さんに療養と生活の場と医療のみならず福祉サービスを受けることができる場を提供しています。また、もの忘れ外来での認知症診療を通して病-診連携や病-病連携、神経難病に対する臨床研究・治験、早期パーキンソン病に対するリハビリテーション（LSVT BIG®）や、神経難病8疾患を対象としたCYBERDYNE社製ロボットスーツHAL® 下肢タイプを用いた歩行機能改善治療など、先進医療も行っています。

神経内科部長　**中村昭則**（なかむら あきのり）

祭

第35回夢来（むらい）商工夏まつりに参加して 7月30日

病院をより身近に感じていただくために、まつもと医療センターでは、これまでも様々なイベントを地域に参画し実施して参りました。まつもと医療センター松本病院の所在地である村井地区へも病院をアピールするという目的から、数年前よりその商工会の夏祭りである「夢来商工夏まつり」に参加しています。

「夢来商工夏まつり」は村井町商工親和会が主催し村井町会・小屋町会が後援する、今年で35回目を数える歴史ある地域の夏祭りです。商工会メンバーの一員として事前の打ち合わせ・準備から参加しました。7月30日（日）の夏まつり当日は、雨が時折ぱらつく生憎のお天気となってしまいましたが、地元プロサッカーチームの「松本山雅」の選手サイン会、バスケットボールチームの「信州ブレイブウォリアーズ」のグッズ販売、ミニSL、チアダンスチーム「コスモス」のダンス等もあり多くの人が訪れました。

当院のブースでは、血圧測定・栄養相談、健康相談に加え、今年度は、近年話題となっている「もの忘れ相談」を実施いたしましたところ大変好評を博しました。30名弱の来場者でしたが、来られたお客様には、経口補水液や減塩醤油、ドレッシングの試供品を配布させていただきました。また、主催の商工会より「医療班のブースも兼ねて下さい」とのお話しだったので、夏祭り中の不測の事態に備え医師、看護師が時間中待機していましたが、特に怪我、熱中症の患者さんはおらず、無事に終了することが出来ました。

今回の夢来商工夏まつり参加により、地域住民に対して少しばかりの地域貢献と病院をアピールが出来たことと思います。今後もまつもと医療センターが地域の皆様に愛される病院として貢献出来るよう邁進していきたいと思っています。

管理課長　西沢（にしざわ）　智明（ともあき）

感染対策研修会

全職員を対象に年に2回感染対策研修会を開いています。今回は、「なくそう針刺し事故、よく知ろう血液暴露感染症」をテーマに、針刺し事故の予防と事故時の対応、血液体液暴露による感染症のB型、C型肝炎ウイルス、HIVにつき研修会を開催しました。

針刺し事故を防ぐためには、採血や注射に用いた針を、リキャップせずに捨てる「針捨てボックス」の準備を怠らないことが必須です。複数のスタッフが関わる際には十分なコミュニケーションをはかる事も重要です。針刺し事故で感染する確率はHBV、HCV、HIVと一桁ずつ低下しますが、最も迅速に対応する必要があるのはHIV陽性のときです。針刺し事故時には、暴露源の感染症検査、被曝露者の感染症とHBs抗体検査を迅速に行います。HIVに暴露した場合でも、2時間以内に速やかに抗HIV薬を開始することで感染を防ぐことができます。HBVには予防接種が有効で、HBs抗体が無い場合にはγグロブリン製剤やワクチン接種で対応します。HCVは感染しても、新しい直接作用型抗ウイルス剤の内服により100%近くウイルスが排除出来るようになりました。

血液体液暴露による感染をむやみに恐れる必要はありませんが、針刺し事故は予防が第一です。必ず「針捨てボックス」を携えて採血や注射に臨みましょう。

ICT　古田（ふるた）　清（きよし）

お知らせ

第8回まつもと医療センター登録医大会のご案内

第8回まつもと医療センター登録医大会を左記の予定で開催いたします。登録医の先生方には、別途ご案内をさせていただきます。奮ってご参加くださいますようお待ち申し上げます。
（まつもと医療センター　地域医療連携室）

日時　2017年11月22日（水）　場所　アルピコプラザホテル

Opening Remarks　18:45
まつもと医療センター院長　北 野　喜 良

Part1

演題①　18:50～19:20
「未　定」
未　定

演題②　19:20～19:50
「医療者のための結核の知識」
呼吸器内科医長　鈴 木　敏 郎

Part2　19:50～21:00
司会　血液内科部長・医局長　伊 藤　俊 朗
診療科紹介 & 情報交換会・懇親会

理　念

いのちの尊さを重んじ、質の高いやさしい医療を提供します

基 本 方 針

1. 医学的根拠に基づいた医療を安全に提供します
2. 適切かつ十分な説明を行い、理解と同意を得た医療を提供します
3. 患者さんの思いを大切にし、敬意と思いやりの心で接します
4. 地域の医療機関と連携し、地域医療の向上に努めます
5. 教育研修の充実を図り、職員の能力向上と人材育成に努めます
6. 常に前進・研鑽し、臨床研究を通じて医療水準の向上に努めます
7. 明るく健全な病院経営を行います

患者さんの権利

わたしたちは以下の患者さんの権利を守り、最善の医療を提供するように努めます。

1. 良質かつ適正な医療を平等に受ける権利
2. 自己の病状や予後・治療の手順とその危険性および有益性・代替手段についての十分な情報提供を受ける権利
3. 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
4. 意思に反する場合、情報を知らされない権利
5. 検査の諾否や治療法の選択について、自らが決定する権利
6. いつでも自己の決定を取り消すことができる権利
7. 個人の医療情報に関するプライバシーが守られる権利
8. 健康教育を受ける権利
9. 人格や価値観が尊重され、尊厳を保って生を全うする権利

まつもと医療センター
第 32 号　平成29年10月1日発行
発行人　院長　北 野　喜 良

松 本 病 院
〒399-8701　長野県松本市村井町南2丁目20番30号
TEL.0263-58-4567　FAX.0263-86-3183
中信松本病院
〒399-0021　長野県松本市寿豊丘811
TEL.0263-58-3121　FAX.0263-86-3190
http://mmccenta.jp/

●編集後記●

9月2日、中信松本病院の一部が村井の地に引っ越しました。人工呼吸器を装着されていたり、コミュニケーションもままならない最重症の患者さんたちを大切に大切に新しい病棟にお連れしました。引っ越しの夜は、患者さんたちも安心されたのか、いつになくぐっすりお休みだったと聞きました。1ケ月がたち、スタッフも患者さんたちも少しずつ慣れてきたようです。またひとつ、新しいまつもと医療センターの姿が見えてきた気がします。来年5月の全統合に向けて、次の準備が始まっています。（U）

印刷／株式会社　交文社